

# 全国乳がん患者登録調査報告

2006 年次症例

日本乳癌学会

全国乳がん患者登録調査  
2006年次症例の調査報告にあたって

日本乳癌学会・登録委員会  
岩瀬 拓士

1975年より乳癌学会の前身である乳癌研究会の事業として開始された乳癌登録は、2003年までの29年間に188,265症例が登録されました。新しい登録システムが導入された2004年次に14,805例であった登録症例数は今回の2006年次集計では大幅に増加し、2009年2月18日現在20,510症例、参加登録施設数は459施設となっています。

乳癌学会ではこの貴重なデータをさらに信頼度の高いものとするため、登録を学会認定施設の必須条件として義務付けることを決定いたしました。一定の準備期間において2012年からの実施となりますが、これにより全国罹患数の7割を越える登録が一気に達成できるものと期待しています。

今後はこうして集められた貴重なデータを有効に利用し、乳癌治療の均てん化の方向に役立てることができれば嬉しく思います。

引き続き乳癌登録事業の重要性をご理解いただき、各方面よりいっそうのご支援とご協力をお願い申し上げます。

乳癌学会登録事業を支援していただいた以下の企業に心より感謝申し上げます。

武田薬品工業株式会社  
中外製薬株式会社  
ブリストル・マイヤーズ株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社  
サノフィ・アベンティス株式会社  
ノバルティス ファーマ株式会社  
大鵬薬品工業株式会社

バイエル薬品株式会社  
日本化薬株式会社

2006 年次症例データは、以下の 251 施設から登録いただいた臨床データを解析したものです。

都道府県名	施設名
<北海道>	JA 札幌厚生病院、KKR 札幌医療センター、NTT 東日本札幌病院、伊達赤十字病院、勤医協中央病院、釧路労災病院、国家公務員共済 斗南病院、市立釧路総合病院、市立室蘭総合病院、市立函館病院、手稲溪仁会病院、日鋼記念病院、函館赤十字病院、北海道がんセンター、北海道大学、北見赤十字病院、麻生乳腺甲状腺クリニック
<青森>	弘前大学医学部附属病院、黒石市国保黒石病院
<岩手>	岩手医科大学、岩手県立中央病院、盛岡赤十字病院
<宮城>	みやぎ県南中核病院、大崎市民病院、東北大学病院
<秋田>	秋田赤十字病院、由利組合総合病院
<山形>	恩賜財団済生会山形済生病院、公立置賜総合病院、山形県立河北病院、鶴岡市立荘内病院、日本海総合病院、米沢市立病院
<福島>	<b>竹田総合病院</b>
<茨城>	牛久愛和総合病院、牛尾病院、筑波メディカルセンター病院、筑波大学
<栃木>	自治医科大学、足利赤十字病院、獨協医科大学
<群馬>	桐生厚生総合病院、群馬県立がんセンター、群馬大学、原町赤十字病院、国立病院機構 西群馬病院、沼田病院
<新潟>	新潟県厚生連長岡中央総合病院、新潟県立がんセンター、新潟県立新発田病院、新潟県立中央病院、長岡赤十字病院
<山梨>	<b>山梨県立中央病院</b>
<長野>	安曇野赤十字病院、佐久総合病院、昭和伊南総合病院、信州大学、長野市民病院、飯田市立病院
<東京>	ナグモクリニック、医療法人財団順和会 山王病院、河北総合病院、癌研有明病院、結核予防会 複十字病院、公立学校共済組合関東中央病院、公立福生病院、国家公務員共済組合連合会 立川病院、国立がんセンター中央病院、国立国際医療センター戸山病院、順天堂大学附属順天堂医院、聖路加国際病院、東京医科大学八王子医療センター、東京警察病院、東京厚生年金病院、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学、東京都保健医療公社大久保病院、東京都立駒込病院、東京都立府中病院、東十条病院、同愛記念病院、日本医科大学付属病院、日本大学医学部、日本大学医学部付属練馬光が丘病院、北里研究所病院
<埼玉>	さいたま赤十字病院、春日部市立病院
<千葉>	旭中央病院、国立がんセンター東病院、小張総合病院、松戸市立病院、新八柱台病院、成田赤十字病院、千葉県がんセンター、千葉大学大学院、船橋市立医療センター、船橋二和病院、帝京大学ちば総合医療センター、東邦大学医学部付属佐倉病院
<神奈川>	横浜栄共済病院、横浜市立みなと赤十字病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、茅ヶ崎市立病院、茅ヶ崎徳洲会病院、国立病院機構 横浜医療センター、国立病院機構 相模原病院、済生会 神奈川県病院、神奈川県立がんセンター、聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院、聖マリアンナ医科大学病院、東海大学病院
<岐阜>	JA 岐阜厚生連 岐北厚生病院、JA 岐阜厚生連 東濃厚生病院、岐阜県総合医療センター、岐阜県立多治見病院、岐阜市民病院、岐阜大学医学部附属病院、公立学校共済組合 東海中央病院、市立恵那病院、大垣市民病院、中濃厚生病院、朝日大学歯学部附属村上記念病院
<静岡>	掛川市立総合病院、県西部浜松医療センター、沼津市立病院、聖隷浜松病院、袋井市立袋井市民病院、磐田市立総合病院
<愛知>	JA 愛知厚生連 江南厚生病院、JA 愛知厚生連 豊田厚生病院、愛知医科大学、愛知県がんセンター中央病院、安城更生病院、医療法人宏潤会 大同病院、一宮市立市民病院、岡崎市民病院、丸茂病院、国立長寿医療センター、国立病院機構 名古屋医療センター、春日井市民病院、小牧市民病院、津島市民病院、東海市民病院、藤田保健衛生大学、豊橋市民病院、名古屋市立大学病院、名古屋大学医学部附属病院、名古屋第二赤十字病院

<三重>	三重県立総合医療センター、三重大学医学部附属病院
<富山>	富山県済生会富山病院、富山県立中央病院、富山市民病院
<石川>	石川県立中央病院
<福井>	福井大学医学部附属病院
<京都>	関西医科大学附属男山病院、京都桂病院、京都大学医学部附属病院、京都第一赤十字病院、市立福知山市民病院、乳腺クリニック児玉外科
<滋賀>	近江八幡市立総合医療センター、市立長浜病院、大津赤十字病院、長浜赤十字病院
<大阪>	NTT西日本大阪病院、PL病院、りんくう総合医療センター市立泉佐野、近畿大学医学部、健保連大阪中央病院、国立病院機構大阪医療センター、市立貝塚病院、市立豊中病院、松下記念病院、星ヶ丘厚生年金病院、大阪けいさつ病院、大阪厚生年金病院、大阪市立総合医療センター、大阪大学大学院医学系研究科、大阪府済生会富田林病院、大阪労災病院、八尾市立病院、北野病院、淀川キリスト教病院、和泉市立病院
<兵庫>	加古川市民病院、関西労災病院、公立学校共済組合近畿中央病院、甲南病院、高砂市民病院、国立病院機構姫路医療センター、済生会兵庫県病院、社会保険神戸中央病院、神戸市立西市民病院、兵庫県立加古川病院、兵庫県立成人病センター、明和病院、六甲アイランド病院
<奈良>	済生会奈良病院、済生会中和病院、大和高田市立病院、奈良社会保険病院
<和歌山>	橋本市民病院、公立那賀病院、国立病院機構南和歌山医療センター、社会保険紀南病院
<島根>	松江赤十字病院
<岡山>	おおもと病院、岡山赤十字病院、岡山大学医学部・歯学部附属病院、川崎医科大学
<広島>	広島市立安佐市民病院、広島市立広島市民病院、広島赤十字原爆病院、広島大学大学院医歯薬総合研究科、国立病院機構福山医療センター、庄原赤十字病院、福山市民病院
<山口>	山口大学、社会保険徳山中央病院
<徳島>	徳島市民病院、徳島大学医学部
<香川>	たけべ乳腺クリニック、香川県立がん検診センター、三豊総合病院
<愛媛>	愛媛県立中央病院、国立病院機構四国がんセンター、住友別子病院
<福岡>	にゅうわ会及川病院、医療法人財団博愛会博愛会病院、九州大学、国立病院機構九州がんセンター、済生会八幡総合病院、社会保険久留米第一病院、福岡大学病院、福岡和白病院、北九州市立医療センター、北九州市立八幡病院
<佐賀>	国立病院機構嬉野医療センター
<長崎>	長崎県立島原病院、長崎大学医学部歯学部附属病院
<熊本>	熊本市立熊本市市民病院、熊本大学、熊本地域医療センター、健康保険人吉総合病院、済生会熊本病院、水俣市立総合医療センター
<大分>	大分県立病院、中津市民病院
<鹿児島>	鹿児島大学病院、博愛会相良病院

注：以下の症例数は、同一患者の両側発症を2症例として計算しています。また、3.以降は女性乳癌のみを対象とした集計結果です。

1. 2006年発症数（2009年2月18日現在）  
20,510 症例

現在、日本人女性が1年間に何人乳癌になるという正確な数字はありません。いくつかの府県の地域がん登録から推定した人数では年間4万人程度が乳癌になるといわれています。本集計ではそのうちの半数弱が登録されていると考えられます。日本人女性が一生のうちに乳癌になる人は20人に1人といわれています。

2. 性別

性別	症例数	%
女性	20,412	99.5
男性	97	0.5
	20,510	100

男性も乳癌になりますが、まれです。

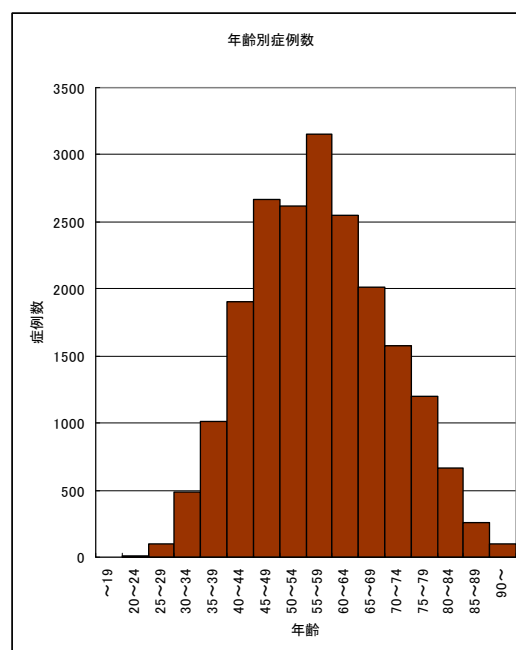
3. 乳癌家族歴

乳癌家族歴	症例数	%
なし	17,363	85.1
あり	1,787	8.8
不明	1,262	6.2
合計	20,412	100

家族歴があったのは、2親等以内、すなわち、母親、祖母、娘などが乳がんになったことのある場合です。家族が乳癌になったことのない人が85%いることに注目して下さい。家族がなかったことがないからといって過信は禁物です。

#### 4. 年齢

年齢	症例数	%
～19	3	0.0
20～24	13	0.1
25～29	95	0.5
30～34	488	2.4
35～39	1,011	5.0
40～44	1,903	9.3
45～49	2,672	13.1
50～54	2,620	12.8
55～59	3,154	15.5
60～64	2,549	12.5
65～69	2,013	9.9
70～74	1,580	7.7
75～79	1,204	5.9
80～84	669	3.3
85～89	260	1.3
90～	98	0.5
不明	80	0.4
合計	20,412	100



平均 57.2 歳

日本では 40 歳代後半で最も乳癌になる割合が高いとされてきましたが、日本の人口構成は高齢化しており、患者数では 50 歳代後半が最も多くなっています。閉経後になりやすい欧米型に変化しつつあるかは、最も新しい年齢構成で補正する必要があります。

#### 5. 発見状況

発見状況	症例数	%
自己発見	14,001	68.6
検診(自覚症状あり)	882	4.3
検診(自覚症状なし)	4,156	20.4
その他	1,225	6.0
不明	148	0.7
合計	20,412	100

検診で自覚症状がなく発見された人は 20.4%でした。この割合がもっと増えれば日本人の乳癌死亡が減少することが期待できます。

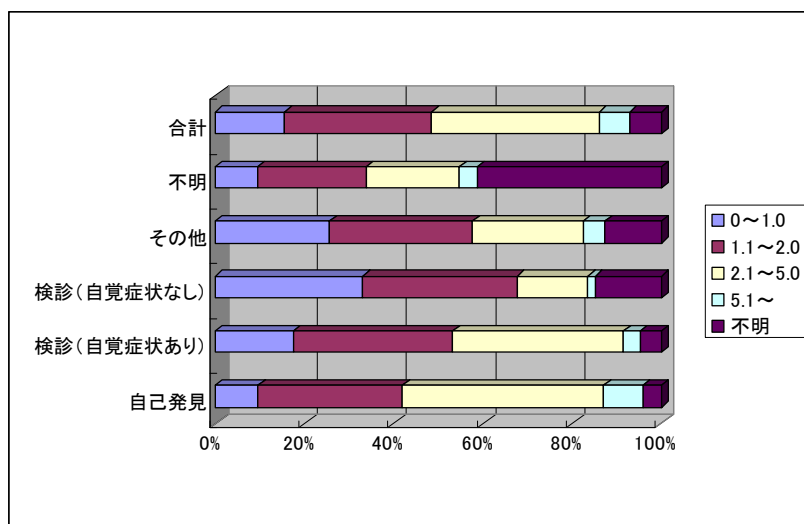
## 6. 腫瘍の大きさ

腫瘍の大きさ(cm)	症例数	%
0	744	3.6
～0.5	287	1.4
0.6～1.0	2,163	10.6
1.1～2.0	6,709	32.9
2.1～5.0	7,656	37.5
5.1～10.0	1,201	5.9
10.1～	206	1.0
不明	1,446	7.1
合計	20,412	100

2～5cm の人が最も多い結果でしたが、2004 年より 5.5 ポイント減少しています。一方、2 cm 以下の割合が 48.5%と 3.6 ポイント増加しています。2cm 以下で発見できると、乳癌で死亡する割合が減少します。

## 7. 発見状況と腫瘍の大きさ

腫瘍の大きさ(cm) ／発見状況	自己発見	検診 (自覚症状あり)	検診 (自覚症状なし)	その他	不明	合計
0～1.0	9.5%	17.5%	33.1%	25.7%	9.5%	15.6%
1.1～2.0	32.4%	35.7%	34.6%	31.9%	24.3%	32.9%
2.1～5.0	45.2%	38.3%	15.8%	24.9%	20.9%	37.5%
5.1～	8.9%	3.7%	1.7%	4.8%	4.1%	6.9%
不明	4.1%	4.8%	14.8%	12.7%	41.2%	7.1%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%



2cm 以下の割合をみると、自己発見の人では 41.9%ですが、検診（自覚症状なし）の人は 67.7%と 2/3 以上を占めました。検診（自覚症状あり）の人は 53.2%ですので、早期発見のためには自覚症状のないうちに乳癌検診を受診すること、もしくは、触らない癌をマンモグラフィで発見することが大切です。

## 8. Stage

Stage	症例数	%
0	1,817	8.9
I	7,232	35.4
II A	5,344	26.2
II B	2,012	9.9
III A	618	3.0
III B	693	3.4
III C	135	0.7
IV	468	2.3
不明	2,093	10.3
合計	20,412	100.0

Stage I 以下の早期乳癌が 44% でした。早期乳癌は腫瘍径が 2cm 以下で、リンパ節や他の部位に転移がない状態で、90% 以上治癒することが期待できます。

## 9. 術式

術式	症例数	%
なし	28	0.1
乳房温存療法	11,659	57.9
全乳房切除	1,494	7.4
胸筋温存乳房切除術	6,626	32.9
胸筋合併乳房切除術以上	71	0.4
その他	253	1.3
不明	5	0.0
合計	20,136	100.0

乳房温存手術が 57.9% と最も多い結果となっています。ただし、腫瘍が大きい人などでは温存ができない場合もあります。早期発見は、乳癌から命を守るとともに、乳房を守ることにもつながります。